

『西郷どん』を育てた教育制度とメディアプラスの組織づくりに見る意外な共通点

## 〈第4回〉 娯楽や休暇も人間的な成長に不可欠

2018年の大河ドラマの顔として注目される『西郷どん』こと、西郷隆盛。彼を輩出した薩摩藩（現在の鹿児島県）は、弊社の社長・恒吉明美の出身地でもあります。そこで調べたところ、この2つの組織には共通点があることがわかりました。時代も成り立ちも異なるのに不思議ではありますが、薩摩藩で行われていた「郷中（ごじゅう）教育」という団体学習活動と、弊社の組織づくりのポイントには、これまでにお伝えした結束力や主体性、イメージの共有のほかにも、共通点があるのです。

4回目となる今回は、娯楽や休暇をテーマにしてお伝えします。



### ■ 娯楽、即、修養

6歳から20歳以上の藩士の子弟たちが自主的に集まって、学芸や武芸に励んでいた薩摩藩の郷中教育。年長者が年少者の面倒を見るのが掟になっていて、相撲や魚釣り、山登りなどの娯楽も、心技体の鍛錬に欠かせない日課として組み込まれていました。そのため、娯楽も学芸や武芸と同様に、集団で行われました。

娯楽を集団で行うという、型にはまったおしつけ行事になり下がっていたことを想像するかもしれませんが、娯楽の内容も、子弟らが自主的に考えて企画していたため、そうなることはありませんでした。前述したほかに、綱引きや宮参りなども、娯楽として行われていたそうです。

ある研究者は、郷中教育で行われていた集団的娯楽を「娯楽、即、修養」、あるいは「修養、即、娯楽」と言っています。つまり、集団で娯楽に興じることも人格形成や知識の向上になる、ということ。学芸や武芸では学び取れない人間関係、地域で生きて

いくために必要な倫理観やアイデンティティを修養できたのでしょう。

娯楽の過ごし方においても秀逸だった郷中教育は、のちに海を渡り、世界的に有名な少年団組織であるボーイスカウトの起源になったと言われています。ボーイスカウトを創始した、イギリスの軍人ベーデン・パウエル卿は、1911(明治44)年に、創始した経緯について「薩摩における健児の社(=郷中教育)の制度を研究し、その美点を斟酌して組織したものである」と発言していることが、その論拠になっています。

## ■メディアプラスの「修養、即、娯楽」



弊社では、全社員が商品について学ぶ機会が設けられていて、そこでは商品企画部の社員が解説しますが、一方的な講義にならないように、楽しみながら学べる工夫をしています。例えばクイズにして対抗戦を行ったり、実験をして商品の効果を実体験するなど。そうすることで覚えやすく、記憶に残りやすいことも実感します。

また、季節ごとの行事もきちんと行なっています。年始の仕事始めには、全社員で初詣に行き、2月のバレンタインデーには女性社員みんなで知恵をしぼり、男性社員にサプライズプレゼントを。また、ホワイトデーにはチョコレートフォンデュパーティーを開いたこともありました。7月の七夕にはオリジナルの短冊を作って、願い事を書いて飾ります。これらのイベントは社外パートナーも巻き込んで参加してもらうことも多く、「季節感を大切にしているですね」と喜んでいただいています。

## ■CSO(チーフ・スマイル・オフィサー)



弊社には2015年から、CEOならぬ「CSO(チーフ・スマイル・オフィサー)」という役職が存在します。これは、欧米起業を中心に広がっている「CHO(チーフ・ハピネス・オフィサー)」という、社員の幸福度に注目して、その向上に務める役職にならって設けた弊社のオリジナルです。「S」のスマイルの意味どおり、社員の笑顔を増やすために、有給休暇の取り方と使い方についてアドバイスするのが主な役割です。就任者は、創業当初からメディプラスをつかってきた女性副社長で、かつては悩める社員の相談役を担当していたことから、適任者として選ばれました。

有給休暇を取ることは、社員の当然の権利であるにもかかわらず、職場の雰囲気や周囲の目を気にして、思うように取れないという人もいます。また、そういった気まずさはなくても諸々の事情で取れない人もいて、弊社ではその理由を大きく分けて2つあると分類しています。

まず一つは、突然の病気や怪我に備えてしまうパターン。家族がいる社員に多く、子どもがいると備える気持ちはよりいっそう強くなります。そこで弊社では、インフルエンザを含む病気や怪我をした場合、申請すれば公休になる制度の導入や、有給休暇の日数を増やすという対応策を講じました。こうすることで、安心して娯楽に使えるようにしているわけです。これは、「家族のための休み」と「自分のための休み」を切り離すべき、というストレスを軽減する観点によるものです。それでも有休の取得が先延ばしになる社員には、CSOがカウンセリングを行い、取得の妨げになる問題の解決と一緒に取り組みます。

もう一つは独身社員に多いパターンで、特にやりたいことがないから有休を取らない、という理由です。そんな社員には、主体性のある休みの取り方を提案します。例えば、取引先の一つである旅行代理店から、年間の旅行価格変動やお薦め旅行先などの情報をもらって、お得に一人旅できる時期をアドバイスするなど。その上で、いつ有休を取るかを具体的に決めていきます。

## ■ 休暇は仕事の延長線上にある

有休を取得できない社員だけでなく、残業時間が月45時間を超えた社員に対しても、CSOがサポートを行います。即座に休暇の日程を決め、何をして過ごすかという内容についても一緒に決めるのです。

休暇は社員個人と会社組織の間にあるものですが、社員のストレスマネジメントに不可欠である以上、休暇は仕事の延長線上にあるものでしょう。もっと言えば、郷中教育における娯楽が「娯楽、即、修養」であったように、弊社は働くことと休むことの両輪を同時に動かすことが大切だと考えていて、休暇も人格形成や知識の向上に役立つものと位置づけています。こうしたスタンスが、人材定着率の高さにつながり、創業メンバーを含め離職者が片手ほどもいない一因に違いありません。

### 【参考文献】

『鹿児島県教育史 復刻版』鹿児島県教育委員会編(大和学芸図書)

『薩摩精神の真髓 郷中教育の研究』松本彦三郎著(株式会社島津興業、尚古集成館)

『薩摩の郷中教育』北川鐵三著(大和学芸図書)

## ■ 会社概要

会社名:株式会社メディプラス

本社:〒150-0013

東京都渋谷区恵比寿4-6-1恵比寿MFビル2階

代表者:代表取締役 恒吉明美

設立:2003年8月

資本金:4,650万円

Tel:03-6408-5121

Fax:03-6408-5122

URL:<https://mediplus.co.jp/>

事業内容:化粧品<メディプラス>の企画・開発・販売